

# ハーバード大学 T.H.Chan 公衆衛生大学院 との交流

## (1) 武見国際保健プログラム視察

2022年11月17日、今村常任理事がボストンを訪問し、武見国際保健プログラムを視察した。本会の役員による同プログラムの視察は、COVID-19 パンデミックの影響により3年ぶりであった。

今回の視察は、指導教授、各国のフェローおよび日本人研究者との面談を通じて、1983年の設立時より同プログラムを支援してきた本会のプレゼンスを改めて示す機会となった。

同プログラムの指導教授を長年務めてきたマイケル・ライシュ名誉教授との面談では、今後10年間を見据えた同プログラムの将来、2023年の設立40周年記念イベントについての議論が行われた。同名誉教授から、近年の米国における家賃をはじめとする物価高騰により、フェローが経済的困難に直面している実態が伝えられた。さらに、プログラムの運営資金についても、人件費等諸経費の上昇により財政的に厳しい状況にあることが示された。

武見フェローによる研究報告では、医療の優先順位および公平性についての言及が顕著となり、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の模範として日本の公的医療保険制度についての関心が高いことが示された。また、武見プログラムが特に低中所得国において医療分野のみならず社会的にも高く評価されていることの認識を得た。

日本人研究者との懇談では、ハーバード大学医学部ブリガム&ウィメンズ病院、マサチューセッツ総合病院の研究員に加え、厚生労働省、経済産業省、法律事務所等から公衆衛生学修士過程で主に医療政策を学ぶ研究者を交え、個々が抱える研究上の課題や諸問題について議論を交わした。

## (2) 武見フェローの研究成果の報告について

2020-2021年度の武見プログラムは、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックの影響により、2020-2021年度をリモート、2021-2022年度を現地参加する形式を採用した。

2020-2021年度の日本人武見フェロー2名のうち、宮原麗子氏（国立感染症研究所感染症疫学センター第14室室長）は2021年9月～2022年6月にボストンで武見プログラムに参加し、研究成果として「結核高蔓延国タイにおける結核感染高リスク群の同定と介入の検討」を本会ウェブサイトに掲載した。もう1名の阿部計大氏は、2022年8月からボストンで武見プログラムに参加している。

## (3) 日本人武見フェローの選考

2023年2月8日、武見フェロー選考委員会において選考し、面接を経て2名の候補者を武見プログラムに推薦した。期間は2023年8月から2024年6月までの11カ月間である。